あとがき

第二十一回日蓮宗教化学研究発表大会は、令和二年十一月二十五日、日蓮宗宗務院で開催されました。本冊子は当日の発表内容を収録したものです。

本年度は新型コロナウィルス蔓延の社会状況の中、例年と異なる形式で開催しました。研究発表は四名の方により行われましたが、すべてリモート（Zoom）の発表となりました。聴講者の参加もなしという状況であったこともあり、数は例年より減少しておりますが、現今の社会状況を鑑みた寺院のあり方について模索・考察する貴重な発表もありました。是非ご一読ください

さて、これも例年とは異なりますが「コロナの時代をいかに生きるか、『立正安国論』に問う」というテーマでシンポジウムを開催いたしました。今般の社会情勢がまさに『立正安国論』に示される「天変地妖飢饉疫癘、遍く天下に満ち」（定遺二〇九頁）ている状況にあると認識した上で、この宗祖の語られたことをどのように受け止め、現代において具体実践に繋げていくか、ということを目的に議論が為されました。パネリストとして現代宗教研究所主任をお勤めになられた三人の方々、赤堀正明師、影山教俊師、髙佐宣長師に、研究員の古河良啓師、水谷進良師、三原正資所長を加えた面々で活発な意見のやり取りが為されました。詳細は誌面をご覧ください。

最後に、当大会は本宗教師は勿論のこと、寺族、檀信徒にも門戸を開いた研究研鑽の証を発表する場としています。貴重な研究成果を多くの方々に知見して頂き、宗門研究機関発展へのご協力を切にお願いいたします。